

<学力調査の結果より>

- ・問題に一生懸命取り組み、無回答問題が少ない。
- ・活字を読むことに慣れていない生徒が多い。
- ・正確な知識や用語の理解、定着が不十分である。
- ・学年によっては成績が上昇傾向にある。
- ・多様な見方や考え方を要する問題の正答率が低い。

<本校の課題>

- 基礎・基本的な知識、用語、概念等の理解・定着をどのように図るか。
- 極小規模校において、対話的・協働的な学びをどのように実現していくか。

学校教育目標

夢や希望を持ち 力を合わせて 時代を生き抜く児童生徒の育成

<目指す生徒の姿>

- ・夢や希望を持ち、学習に主体的に取り組むことのできる生徒。
- ・自分の考えや思いを伝えることのできる生徒。
- ・「対話」を通して自分の考えを深めることのできる生徒。

<検証指標>

- ①全国・県・市の学力調査の結果、知識・技能の正答率を60%以上にする。
- ②全国・県・市の学力調査の記述問題の正答率を各個人において、現状の5%以上向上させる。

基礎・基本の定着、対話的・協働的な学びのためのICT活用(授業UD,UDL)

学校<全教科等で共通した取組>			家庭・地域との連携
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
①知識の理解、定着のために、基礎的な知識や用語を生徒が授業の中で活用する機会の拡大。 (復習、説明、練習、まとめなど) ②個々の特性を理解し、授業UD、UDLの視点を取り入れた授業設計と個に応じた学習支援の充実。 (個別最適な学び、協働的な学び) ③チャレンジタイム、チャレンジノートの活用等 ④リフレクションタイム(帰りの会)	①課題に対する自分の考えを書く機会・場面の拡大。 ②授業UD、UDLの視点を取り入れた授業設計し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、プレゼンテーションや対話の場面を仕組む。 (個別最適な学び、協働的な学び) ③チャレンジタイム、チャレンジノート、家庭学習の活用 等	①「達成感」「自己肯定感」を高めることに配慮した個に応じた支援。 ②家庭学習の推進。 (チャレンジタイム、チャレンジノート等)	①積極的な情報発信。(学校・保健便り・学級通信の発行) ②家庭での生活習慣の見直し。 (メディアの利用の仕方 ※夜9時以降は通信端末機を保護者に預ける等) ③チャレンジタイム →家庭学習の習慣化

<各教科での取組み>

国語	数学	英語	理科	社会	音楽	家庭科
・授業UDの視点を取り入れたわかりやすい授業づくり。 ・オンライン辞書やネット検索の活用による、語彙力・情報活用能力の向上。 ・「書く」活動にあてる時間の確保と、内容の充実。 ・授業形態の工夫による対話力の向上。	・授業UDの視点を取り入れたわかりやすい授業づくり。 ※ 概念を表す「用語」や「記号」は数学を「考える」という作業を行う際の素地の1つである。指導者は、このことをしっかりと念頭に置いて ◎ 数学用語の理解を深める取組を強化する(言語活動の充実) ・用語説明問題を解かせる ・具体例の説明活動を行う ・数学用語を使って対話させる ・上記の取組に、チャレンジタイムやキュビナの活用も取り入れる。	・授業UDの視点を取り入れたわかりやすい授業づくり。 ・個に応じた学習支援の充実→特に授業始めの帯活動において、習熟度別の課題(TerraTalk,Qubena,紙ドリルのバランス良い活用)を行う(個別最適な学び)。また、課題には複数の選択肢を与える(UD・UDL)。 ・課題に対する自分の考えを書く機会場の拡大→プレゼンテーション等の言語活動を適宜行い、適宜他学級との合同授業も行う(協働的な学び)。 ・「達成感」「自己肯定感」を高める→チャレンジタイムにおいてスモールステップで進める英作文に取り組む。また3年生はあじさいEnglish Speech Contestに挑戦する。(家庭学習の推進・自分に考えの表現)	・授業UDの視点を取り入れたわかりやすい授業づくり。 ・予想や考察場面で根拠をもとに考えを書くことを意識づける(表現力の育成) ・基礎的な用語の習得のために、科学的な概念と関連付けながら、用語に触れる機会を増やす。(復習、練習、説明、演習、まとめなど) ・振り返り活動の充実。	・授業UDの視点を取り入れたわかりやすい授業づくり。 ・基本的な用語の習得のために、テスト前に自主的な学習に取り組めるような課題を用意して取り組めるようにする。その課題の中から何点分か出題して努力した結果が点数に反映するテストを実施する。 ・授業で考える場面をできるだけ多くして表現する機会を増やす。	・授業UDの視点を取り入れたわかりやすい授業づくり。 ・友人同士で意見を共有し、自分とは異なる考え方を知ることで、楽曲の解釈を深めていく。 ・上質な音楽に触れ、音楽のよさや美しさを感じ、授業に取り組む意欲を高める。	・授業UDの視点を取り入れたわかりやすい授業づくり。 ・生活の自立に必要な基礎的な理解を固めるとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・身近な課題を取り上げ、自分の考えや意見を書く機会を増やす。 ・chromebookを活用し、友人同士で共有の活動を行うことで、授業に取り組む意欲を高める。